

## デザインの力で 未来を拓く

60周年記念ロゴマークをはじめ、千葉大学の刊行物のデザインを数多く手がける宮崎紀郎先生。いわば千葉大学のイメージ発信者である先生に、作品の思い出、千葉大学への思いをうかがいました。



千葉大学グランドフェロー 宮崎紀郎  
みやざきみちお

— 大学に入学した時、千葉大学を選んだ理由を聞かせてください。

小さな頃から絵を描くのは好きだったので、千葉大学を選んだのは工学部の中にデザイン学科があるという特殊な雰囲気惹かれたから。芸術系の大学とは違い、あくまでも人の生活に役立つ、豊かにするためのデザインを学んでみたかったです。大学に入ってみると在学中から様々な広告賞を受賞する先輩や、ニコンのカメラのデザインをしている教官などそうそうたる人たちが周囲にいて、非常に刺激になりました。とにかくお金がなくて、近所の中華料理店でアルバイトをしてみました。おかげさまでギョーザづくりの腕は上がりました(笑)。学科は違いましたが写真家の天才アラーキー(荒木経惟氏)とは同期入学で、よく一緒に野球をしたりして、学生生活を謳歌していましたね。

— これまでの作品についての思いや苦勞話を聞かせてください。

◆ 最小限の情報で伝える



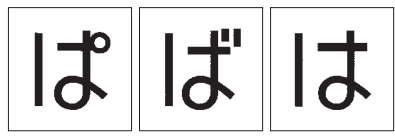
TOOTOとの共同研究で手がけたトイレのピクトグラム(絵文字)では、「ウォッシュレット」は水の出る角度は75度なので絵も75度にするべき。「使い方がわからない人もいるのでおしりを人れるべき」といった技術者ならではの意見に悩まされました。ピクトグラムは必要最小限の情報でいかに瞬時に伝えるかが勝負ですから、事実にとられ過ぎたり人を不快な気持ちにはしてはいけません。また、本当はトイレの設計段階から携わり、デザインの観点から設計に対して意見ができたはずだと後悔しています。デザインというものは

はただ表面的な部分をきれいに  
見せるものではない、もっと  
本質的なもの、内面的なものをトータル  
で人に伝えていくものですから。

◆ 文字の開発もデザイン

ユニバーサルフォント

デザインの仕事は多岐にわたるといって例として、携帯やパソコンのディスプレイ用のフォント(文字書体)開発は印象深いですね。そもそも印刷用の文字をディスプレイに使うことは少し無理があり、とくに濁点の表現は難しいんです。「ば」なのか「ぱ」なのか「は」なのか。そこで思い切った濁点の点の長さを不均等にしてみると一気に視認性が高くなりました。「は」に「ミ」をつけるのではなく、最初から「ば」という1文字として考えたわけです。実はこれは書道の世界では普通に行われていることでして、発想を変えてみると問題が解決するいい例ですね。



— 工学部デザイン学科とはどのような学科ですか？

工学部の中にあるということで、同じデザイナーであっても、より科学的、技術的に強く、メーカーのデザイン部門で働く人材を多く輩出しています。それだけではなく、デザイン学科の大きな強みのひとつは「総合力」です。デザインをする「モノ」、グラフィックデザインをする「情報」、インターネットから商店街までを企画・デザインする「環境」と3つの大きな柱を、1人の学生が総合的に学ぶことができます。ちなみにSONYのウォークマンの生みの親である黒木靖夫氏もOBなので、黒木さんも最初は百貨店でグラフィックデザインをやった

右 ウォークマン  
左 営団地下鉄



いたんです。それがウォークマンの開発プロジェクトリーダーに成り得たのはデザイン学科(当時は工業意匠学科)卒業だからなのかもしれないですね。

— 二〇〇六年

に千葉市美術館で行われた工業意匠学科・デザイン学科の展示会は話題を集めたそうですね。

一九五〇年代から現在までの卒業生のデザイン約400点を集め展示したのですが、大好評でした。来場者は口々に「これ全部千葉大学の人の作品なんですか?」と。それもそのはず、初代ウォークマンに始まり、テルモの電子体温計、べんてるの修正液、東京の営団地下鉄のサイン、現行の郵便ポストなど誰もが慣れ親しんだものばかりなんです。これらすべてがわずか1学科から生まれたということが凄いですよね。現役学生や卒業生にとってみれば私たちの大学は凄いなんだ!ということが再確認できたと思います。

— 千葉大学創立60周年記念のロゴマークは、宮崎先生が指導する学生グループ「クリエイティブ」の協力で作成しました。

「クリエイティブ」というのは千葉大学生がボランティアでデザインワークを行っているグループなんです。採用されたロゴは「60」を無限大記号と融合させて、未来に永く発展する意味を含めました。やはり変わるためには気分から変えていかないと。そのためのシンボルは大切です。「クリエイティブ」の皆はとも仲がよくて、プロのデザイナーである社会人学生も会員として頑張ってくれています。私の



研究室での様子



「クリエイティブ」の学生と

— 最後に千葉大学への思いを聞かせてください。

途中、広告会社等に行つてクリエイティブの一線で働くことを考えたときもありましたが、デザイン学科を放っておけません。千葉大学が好きなんです。しつこいようですが、デザインは表面的なカッコ良さだけじゃない。人の役に立ってこそそのものです。暮らしの隅々まで入っているのがデザインであって、今こそデザインが求められていると思うんです。学生たちには、とにかく大勢の人と付き合ってください。どんなに自分のことだけを見続けても、逆に見えてきません。幸い9学部もある千葉大学にはいろんな人がいる。たくさん他者を知ると、自分のポジションは自ずと見えてきますよ。

# 千葉大学創立60周年

## ～歴史を振り返る～



### 年史をつくるために ～附属図書館の仕事～

附属図書館では利用者サービス、学習・研究のための資料収集と管理以外に、大学の歴史を公式に記録する「年史」編纂のための資料の収集管理も行います。今回は「年史」がいかに作られるのかを千葉大学附属図書館本館の方々に聞きました。

「千葉大学では過去に『三十年



インタビューの様子（写真左から学術情報課 加藤氏、西村附属図書館長、学術情報課 菱木氏）

「資料の収集と管理が附属図書館の主な仕事となります。各部署に呼びかけて資料を集め分類し、専用の資料室に保管します。地元メディアに協力し、映像や写真も取り入れます。また、三十年史編纂ではOBなど個人が持っている資料も参考になりましたので、年史を作る時は学外の関係各所への連絡も大事な仕事です。」

三十年史や五十年史は附属図書館にあります。学生にはあまり身近とは言えないかもしれませんが、学生が見るようになれば、違った視点からの編集も可能ですね。例えば「人」に焦点をあてた「年史別冊」とか。今はそれほど注目されないものでも先で貴重な資料になることもある。今回は「年史」を通して「記録」というものの重要性を知ることができました。



年史関係資料室にて

「じっくりと読んでみると、時の流れと千葉大学のつながりもよくわかり、なかなかおもしろいです。また、60年という歴史はあくまで新制大学での話ですので千葉大学の前身からたどると、100年以上の歴史があります。たしかに重く感じますが、デジタル化され、大学のホームページから誰でもいつでも閲覧できるような日もあるんじゃないかと思っています。」



### 記録で見る 大学の歴史

毎年発行している概要(要覧)、千葉大学創立30周年、50周年を記念して作成された年史には、大学全体の歴史が記されています。



三十年史・五十年史



概要・要覧



### 学歌

昭和33年、学内に学歌制定を希望する気運が高まり、翌年、学歌制定委員会が発足。作詞を勝承夫氏に、作曲は平井康三郎氏に依頼。両氏が来学し、学歌制定委員、学生代表も加えて懇談会が開催され、学生の意向が十分にくみとられ反映され、昭和35年制定されました。

千葉大学歌  
 作詞 勝 承夫  
 作曲 平井康三郎  
 (一) 若い空 若い地  
 房総の 風は歌うよ  
 太平洋の意気 寄せ来るところ  
 内海の和気 ただよところ  
 みよ 青春の 花のよるこび  
 千葉大学 心のふるさと  
 (二) 晴れわたる 満ちわたる  
 新鮮な 沙の香りよ  
 向学の窓 清らかに高く  
 探究の庭 はてなく 広く  
 みよ 凜然と叡智あつまる  
 千葉大学 文化のさががけ  
 (三) 若い雲 若い鳥  
 黎明の 星は光るよ  
 躍進の道 はるかにひらけ  
 純情の友 楽しく競う  
 みよ 永遠の聖火燃えたと  
 千葉大学 栄あるまなびや

千葉大学歌



### 学部と大学院の移り変わり

1989 平成 2009

- 文学部
- 法経学部
- 理学部
- 教育学部
- 医学部
- 薬学部
- 看護学部
- 工学部
- 園芸学部



※2009年5月時点

### 平成11年 50周年記念式典



幕張プリンスホテルにおいて創立50周年記念式典、記念講演及び記念祝賀会を挙行了。式典には、学内外の関係者約800名が出席。

### 学生の意識調査

尊敬する人 ※2	大学が好き?嫌い? ※1	
	1996年	2005年
1. 父親	好き 30.1%	28.3%
2. 両親	まあ 46.6%	54.7%
3. 大学の教授	あまり 15.5%	13.6%
4. 坂本龍馬	嫌い 6.4%	3.0%
5. 小・中・高の恩師	無回答 1.4%	0.4%
6. 母親		
7. 自分自身		
8. アインシュタイン		
9. 織田信長		
10. 先輩		

参考資料  
 ※1 大学が好き?嫌い?  
 (千葉大学生生活協同組合 第41回学生生活実態調査より)  
 ※2 学部別学生像、イメージカラー、尊敬する人  
 (1985年の「千葉大生白書」より)

身近な人物が尊敬の対象となっており、歴史上の人物は上位グループに入っていない。

### 西千葉駅前を比較



### 今と昔

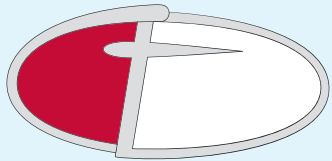


(昭和46年頃)



(平成21年現在)

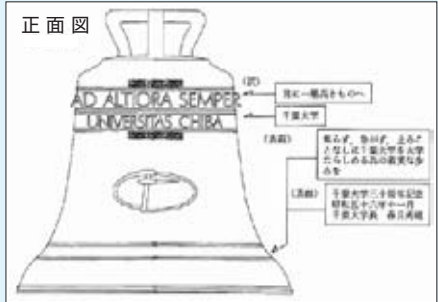
昭和24年に赤穴宏氏（現千葉大学名誉教授によつてデザインされました。Chiba Daigakuの頭文字であるCとDを組み合わせるとともに、千葉大学の千を配して構成され、輪郭は無限の生命力を象徴する植物の種子をかたどっています。また、左の紅色は情熱を、右の白色は純粋を象徴しています。



## 公式シンボルマーク

千葉大学創立30周年記念事業の一環として、昭和57年に、西千葉キャンパスに位置する千葉大学附属図書館本館塔屋に設置されました。「やよいの鐘」の愛称をもつこの鐘には、ラテン語で本学の理念である「AD ALTIORA SEMPER」（つねに、より高きものをめざして）の語が刻まれています。

## やよいの鐘



当時の設計図から



昭和35年、元工学部山崎幸雄教授の協力を経て制定。制定委員会では、学旗の威厳、重厚性を尊重することに、千葉大学バジルの色彩を採用し、ガーネット（暗紅色）は情熱を、ホワイト（白色）は純粋さを表現するものとして、染分けられ、ガーネットら、ホワイト9の比率になっています。

## 学旗



昭和24年11月5日 開学式の様子



県内に当時存在した官立の高等教育諸機関の統合により千葉大学が生まれ、新制の国立総合大学としての一歩を踏み出した。

### 西千葉キャンパス



昭和48年

### 亥鼻キャンパス



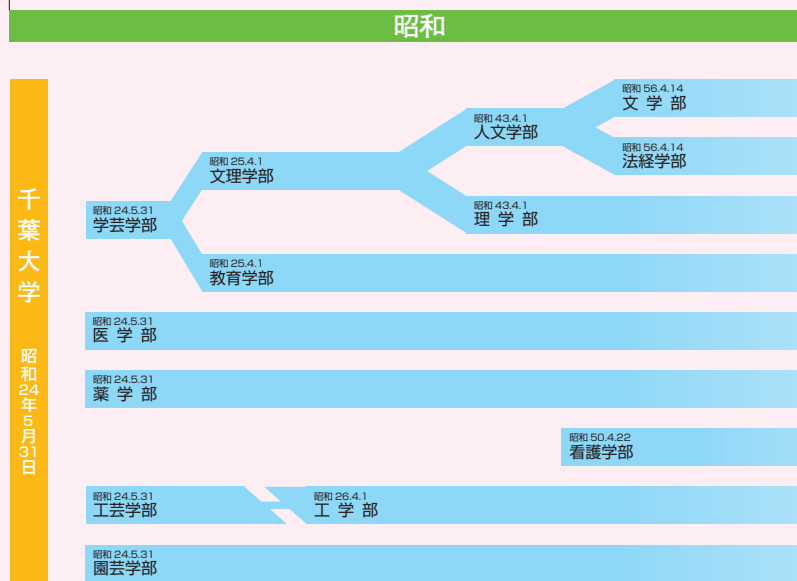
昭和48年

### 松戸キャンパス



昭和53年

1949



現在

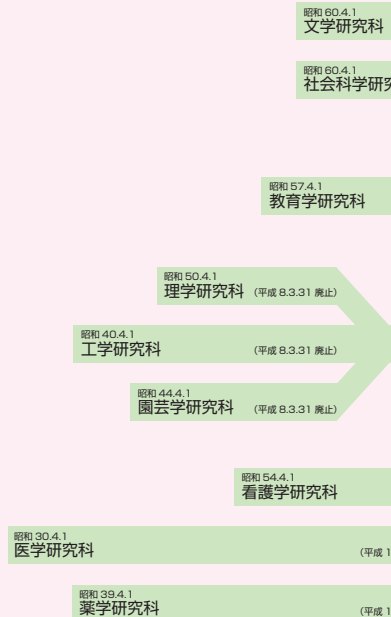


現在



現在

## 大学院



昭和54年 30周年記念式典

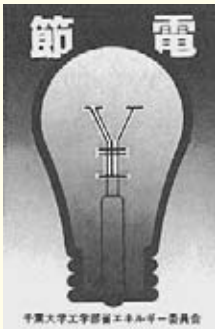


30周年を記念する式典及び講演が、文部省、国立大学協会、国立大学及び本学関係者等多数出席のうえ、教育学部視聴覚教室において行われた。

## 過去の取り組み



当時1枚の値段は、25円でした



「節電ステッカー」

### 1. 千葉大学は宝くじを発売していた？!

昭和24年末に、翌25年から学芸学部が文理学部と教育学部に改組されることが決まりましたが、予算不足のため、文理学部の学部移転資金や校舎の建設資金がままならない状況でした。そこで、千葉県との協力による「千葉大学振興宝くじ」が、昭和24年12月15日から一ヶ月間、各市町村や、PTA、大学および後援会、各法人会社を通じて発売されることとなりました。

### 2. 30年近くも前に工学部が行った省エネ活動

工学部では昭和56年4月に省エネルギー委員会を設立させ、各種エネルギーの節約の啓蒙活動を行った。その一環として、「節電ステッカー」を作成。この図案は電球のフィラメントの部分に円記号をダブらせたもの。

### 学部別学生像 ※2



薬学部と看護学部がないのは、サンプル数が少なく、学生像が描けなかったからであろう。

### イメージカラー ※2

- 文学部
- 教育学部
- 法経学部
- 理学部
- 医学部
- 工学部
- 園芸学部

教育学部は1位が「青」(30%)、2位に「こげ茶」。園芸学部はトップが「こげ茶色」(42%)、医学部は「白色」(36%)、そして工学部、理学部、法経・文学部は「灰色」であった。

# 西千葉キャンパスの変遷

キャンパス整備企画室・教授 上野 武

千葉大学のキャンパスは、創立時の一九四九年から西千葉にあったわけではありません。そこで、西千葉キャンパスの変遷をご紹介します。

## ■西千葉キャンパスのスタート

学芸学部（現・教育学部、文学部、法経学部、理学部）、医学部、薬学部、工学部（現・工学部）、園芸学部、の5学部がそれぞれ違う場所から出た千葉大学は、創立直後の一九五〇年から、千葉市弥生町の東京大学第二工学部の敷地（写真1）を千葉大学に所管替えし、医学部と薬学部とを除くすべての学部をここに統合することを国に要望していました。

しかし統合移転が決定されるには、それから約十一年の歳月が必要でした。東大第二工学部は当時生産技術研究所に組織替えになっていたが、その敷地49.5haのうち約39.6haが、一九六一年五月、千葉大学へ移管されることになったのです。当初の要望より面積が少なくなったため、園芸学部は移転を断念しましたが、一九六二年に教育学部が移り、つい事務局長、附属図書館、文理学部と続き、一九六四年に工学部の移転が完了して、現在の西千葉キャンパスの骨格ができあがったのです。（写真2）

## ■現在の西千葉キャンパス

それから約半世紀が経過した現在の西千葉キャンパス（写真3）には、

大小一七九棟の建物があり、延べ床面積は約23万4千㎡に達しています。このうち、築後25年以上経過した建物が3分の2を超えているため、順次耐震改修を行い、安全性と快適性を高めてきました。現在も、耐震改修工事が行われ、関係の皆さんにはご不便をおかけしていますが、いましばらく辛抱ください。

このキャンパスには、約1万3千人の学生教職員が活動しています。千葉市稲毛区の昼間人口は約13.5万人ですから、およそ一割が千葉大学関係者ということになります。したがって、経済面、環境面などで地域に対する影響は非常に大きなものです。このような中、千葉大学は国立大学法人として初めて主要四キャンパス全てで「環境マネジメントシステム（ISO14001）」の認証を受けました。学生の活動を主体とし、全学挙げて環境マネジメントへ取り組む姿勢は全国から高い評価を集めています。

しかし一方で、自転車が増える大学にもなっています。西千葉キャンパス内には6千台を超える自転車があります。このうち、約1割強が放置自転車です。また、駐輪マナーも決して良いとは言えません。自転車が整然と並んでいるだけでもキャンパスのイメージは大きく変わります。美しいキャンパス環境を持続していくために、是非とも皆さんのご協力をお願いいたします。



写真1…一九四九年当時の弥生町付近航空写真  
画面下に埋め立て前の海岸線が見える。  
（東京大学生産技術研究所提供）



写真2：1968年当時の工学部前の通り  
この時点でまだ並木は整備されていない。  
（千葉大学五十年史より）



写真3：現在の西千葉キャンパス（2008年撮影）

## ■西千葉キャンパスの未来像…

### サステイナブル・キャンパス

一昨年、西千葉キャンパスに隣接する東京大学生産技術研究所千葉実験所の移転が発表されました。キャンパス整備企画室では、その場所を含めて全体をサステイナブル・キャンパスとして計画したいと考えています。

21世紀は環境の世紀であり、サステイナブル（持続可能）な社会を形成すべき時代です。これを実現するために、大学には社会から大きな期待が寄せられています。その一つの方法が、大学キャンパスを地域社会のモデル空間としてとらえ、そこをサステイナブル社会実現に向けての実証実験フィールドとしていくことです。

千葉大学は、全学で推進する光熱水費削減プロジェクトによって、二〇〇四年四月から二〇〇七年三月までの3年間で約21%のCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。これ以外にも、大勢の教員・学生が持続可能な社会実現に関わる研究を行っています。大学キャンパスを実証フィールドとして研究をさらに深めると共に、その成果を地域社会に還元するしくみを創り上げていくために、サステイナブル・キャンパスという考え方は大いに役立つのではないのでしょうか。

# CHIBADAI People

施設環境部施設企画課のみなさん



施設企画課では、千葉大学のキャンパス内の建物整備や維持管理のため、予算確保、契約事務を通して教育研究環境を改善し、間接的にみなさんの大学生活をサポートしています。

具体的には、新たに必要な建物の建設計画を企画・立案し、既存施設の有効利用を図るため、老朽設備の耐震・改修を計画的に行っています。

また、安心・安全なキャンパスへの取組みとして、放置自転車や迷惑駐車の取締などの交通改善、構内巡回、施設業務、構内緑地及び建物内の清掃業務を行い、これからもみなさんの大学生活をより良い環境に変えて行くよう努めていきます。

## 創立60周年記念OB・OG 千葉大学を語る

加藤 一郎 氏  
（全国農業協同組合連合会 代表理事専務）

### プロフィール

1949年	東京都生まれ
1971年	千葉大学園芸学部卒業（千葉大剣道部所属）
1971年	全国農業協同組合連合会（全農）入会
2007年	全農代表理事専務（現在に至る）



昭和四十二年、加藤氏（右）と先輩

私の学生時代の夢は、編み笠をかぶり、尺八を吹きながら諸国を遊行する「虚無僧」になることでした。剣道の境地も「虚無」。迷うことなく剣道部と竹葉会に入部しました。誤算は、私は音痴であるとともに、剣道と尺八を両立できるほど器用ではなかったことです。竹葉会は3年で退部しましたが、そこで幸か不幸か定かではありませんが、妻となる女性（71年薬学部卒）と出会いました。剣道は卒業後も稽古を続け、現在も、全農剣道会の会長を務め、全農全国大会に出場しております。

園芸学部では、農業経済研究室で、故鈴木忠和教授には厳しく指導を受けました。70年安保闘争・熾烈な学生運動下にも氏の軸足は揺るぎのないものがありました。故宮本正之助教授には、氏の所有のクルザーで遊ぶなど、未知の世界を経験しました。当時、助手であった石川鍊次郎氏はその後、秋田市長になられました。教授、助教授、助手はそれぞれ個性派であり、考え方も大きく異なりましたが、私にとっては新鮮であり、卒業後も御家族の方々と

も、親しくお付き合いをさせて頂きました。

千葉大の良さとは、学生数が少ない中で、先生方、クラス、部活動の仲間と親交を深めることで、卒業後も様々な場面で、助け合えることだと思います。

現在、クラスの仲間と園芸学部の留学生を支援するNPO活動、また、院生のエキスパートプログラムの学外評議委員、創立100周年の募金委員など、我が母校への支援を努力中です。今後の大学への希望は、学部間の縦割りをなくしていただきたいことです。



平成十九年九月場所、横綱白鵬へ全農賞贈呈